

岡田文化財団設立35周年記念特別企画



魅惑の

清朝陶磁

2014年

8月2日(土) — 9月29日(月)

※会期中無休

会場 -paramitaミュージアム 第1・4・5室

開館時間 午前9時30分〜午後5時30分(入館は午後5時まで)

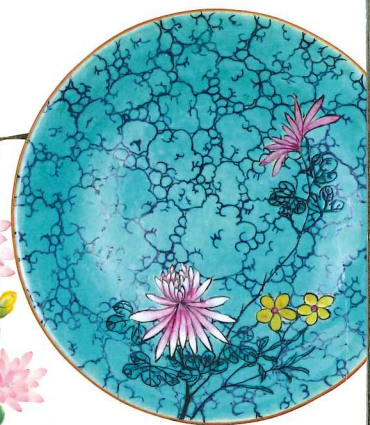
入館料 一般1000円(4枚セット券3000円) / 大学生800円 / 高校生500円 / 中学生以下無料

主催 公益財団法人岡田文化財団-paramitaミュージアム、読売新聞社

共催 京都国立博物館

協賛 あいおいニッセイ同和損保、野崎印刷紙業

後援 NHK津放送局、中京テレビ放送(株)、三重テレビ放送、三重エフエム放送



上から:
粉彩梅花喜團圓象耳瓶 部分 静嘉堂文庫美術館/
黄地粉彩花卉文碗 静嘉堂文庫美術館/
青釉色絵丸文入隅四方猪口 paramitaミュージアム/
粉彩繪轆血(十錦手)のうち 野崎家塩業歴史館/豆彩龍鳳文盤 静嘉堂文庫美術館/
色絵花鳥文皿 十代今泉今右衛門作 今右衛門古陶磁美術館/
粉彩菊蝶図盤 部分 静嘉堂文庫美術館

魅惑の

清朝陶磁



粉彩松鹿図瓶 京都国立博物館

古来、「やきもの」の王者として名高い中国陶磁の中でも、その多様性と色鮮やかさにおいて、群を抜いているのが清時代の陶磁器です。ヨーロッパの王侯貴族や、明治維新後の日本の美術愛好家たちに賞玩されたことはよく知られていますが、「鎖国」という歴史観の影響もあって、江戸時代の日本へもたらされた清朝陶磁には、これまでにあまり注意が払われてきませんでした。

しかし、近年「鎖国」の実態の研究が進む中で、江戸時代には既に相当量が輸入され、日本の「やきもの」生産へも大きな影響を与えたことがわかってきました。

この展覧会では、江戸時代の日本人が愛した民窯製品のおおらかさや、近代日本の陶工が好敵手と認めた官窯製品の精巧さを、伝世の名品を選んで紹介します。さらに、清朝陶磁に影響されながらも、常に新しいものを生み出そうとした日本の陶工たちの足跡を、彼らの作品を通してたどります。

日中の「やきもの」が織り成す百花繚乱の世界をご堪能ください。



粉彩牡丹唐草文角皿
野崎家塩業歴史館



青花雲鶴文福寿文字散約瓶形水指
京都・法金剛院



青花黄彩桃果文盤 東京国立博物館



青花冰梅文瓶 静嘉堂文庫美術館



青花馬文水注 究理堂文庫



五彩花鳥文蓋甕 京都国立博物館

関連イベント

講演会

「清朝陶磁と日本人」

講師：尾野善裕氏
(前京都国立博物館工芸室長・奈良文化財研究所 考古第二研究室長)

日時 8月17日(日) 午後2時～

パラミタコンサート

「中国琵琶コンサート」 演奏者：涂善祥 他

日時 8月24日(日) 午後2時～

「揚琴コンサート」 演奏者：沈兵

日時 9月21日(日) 午後2時～

次回展示のお知らせ

会期

平成26年 10月1日(水)～11月4日(火)

生誕100年 浅野弥衛 一詩情の線刻象嵌画一

鈴鹿市出身の画家浅野弥衛(あさの やえ) (1914-1996)の生誕100年を記念した展覧会で、三重県立美術館、鈴鹿市文化会館、浅野弥衛アトリエでの同時開催となります。絵具を塗り込んだ画面に引っかけ傷をつけて絵具を象徴するという特異な技法や、白と黒の自在な線描による抽象画など、日本美術界に異彩を放つ浅野作品を、パラミタミュージアムのコレクションより選んで展示します。

会期

平成26年 10月11日(土)～11月24日(月・祝)

上村松園・松室・淳之 三代展

本展は奈良市にある松伯美術館所蔵の名品を中心に、上村松園(しょうえん) (1875-1949)が描く格調高い美人画、二代目松室(しょうこう) (1902-2001)の気品あふれる花鳥画、三代目淳之(あつし) (1933-)氏が生み出す、東洋独自の絵画表現を模索しながらも、新しい感覚で描く花鳥画を一室に展示します。親子三代にわたり受け継がれる美の系譜をご堪能下さい。

■お車をご利用の場合／東名阪「四日市I.C.」より国道477号線(湯の山街道)を湯の山方面へ約6.5km。■無料駐車場有り(普通車100台、大型/バスター可)
■電車をご利用の場合／近鉄「四日市駅」下車、近鉄湯の山線に乗り換え約25分、「大羽根園駅」下車、西へ300m。■全館バリアフリー、車椅子常備

